村上誠一郎候補（53）

＝自前

特殊法人統合に尽力

昨年9月、行革担当相に就任。国会議員だった曽祖父や父、伯父も果たせなかった入閣を実現させた。幕参で「一族の中で一番出来の悪い私が…」と声を詰まらせた。

仕事は「郵政民営化以外の小泉改革全般」。抵抗勢力ばかりで困難が続いた。各省庁に整理統合できる特殊法人を挙げるよう命じたが、どの省庁もゼロ回答。法人について調べ抜いた上で強く交渉し、見直し対象だった32の法人を22に減らした。国会議員の大多数が反対した混合診療の解禁では、医師だけでなく末期がんの患者からも自らヒアリングして、落とし所を探った。「ともに戦ったスタッフは一生の仲間」

体力勝負の折衝を乗り切ろうと、カロリーの高い食事ばかりで体重が増えた。夏休みに減量するつもりだったが「当分難しい」と苦笑いする。

9月2日 毎日新聞

村上誠一郎氏（53）

＝自前

改革次々立ち止まれぬ

昨年9月に発足した第2次小泉改造内閣で行革・規制改革担当相に就任。独立行政法人の再編や特区の認定、混合診療解禁の検討など、郵政以外の構造改革は、ほぼすべて任されたという。

それだけに「改革を止めるな」という訴えに熱が入る。「郵政改革が成功しても、その後にはさらに難しい改革が控えている。そのたびに、いちいち政治が立ち止まっているようでは、日本は沈んでしまう」

小さな政府を目指すことで財政の健全化を図る。基礎学力を徹底的に子どもたちに習得させる。世界と友好関係を築きながら独自性を持って世界的な課題に貢献する。これら「財政・教育・外交」の再建が政策の柱だ。「日本が立ち直るチャンスは今しかない」と演説で力を込める。

「中国の古典は、千年以上も前に人間のすべてを解き明かしているように思う。なるほど、と思わされることが多い」と漢詩や漢文を好む。

9月2日 朝日新聞

村上誠一郎さん 53

自民・前

改革完遂へ〝燃焼中〟

「郵政民営化をはじめとする構造改革は山の8合目まで来た。日本の将来の礎となる政策を完遂するためには、絶対負けられない」

熱弁を振るうちち、額から汗がしたたり落ちた。〝熱い男〟だ。

昨年秋、行革担当相に就任し、特殊法人改革に取り組んだ。「官僚を説得するのに必死だった。だが、郵政を除くほとんどの改革をして必ず戻って来てほしい」と言われた。その〝熱さ〟に触れ、「やるしかない」と誓ったという。

趣味はクラシック音楽鑑賞と将棋。最近は、漢詩の書写も息抜きの一つに。無心で中国の古典を書き写すと、心が休まり、仕事を忘れることができる」。クールダウンの瞬間だ。

9月3日 産経新聞

村上　誠一郎さん　53

＝自民前

睡眠削って改革に奔走

「財政、教育、外交を再建しないと、国家が沈んでしまう」。日本が直面している現実の厳しさと課題の大きさに、身が引き締まる思いと語る。

曽祖父、伯父、父も国会議員を務めた政治家一家に生まれ、三十四歳で衆院初当選。連続六期を務め、大蔵政務次官、初代財務副大臣などを歴任した。二〇〇四年九月に行政・規制改革担当相として念願の初入閣。第二次小泉改造内閣で約十一カ月間、郵政以外の構造改革を担う。「構造改革を続ける」

いくら時間があっても足りない。日々で、睡眠時間を削って奔走。三十二の独立行政法人を二十二に再編、ダイエーやミサワホームなど、大臣の仕事量は想像以上で、毎日が「ガチンコ勝負」。「規制改革、行政改革の応援団はゼロに等しく、『忍』の一文字に尽きる。

大臣に対する産業再生機構の支援決定などを手掛けた。「担当する五つの分野から飛んでくるボールを受けるのは大変だが、充実度は百二十パーセント」と振り返る。

そんな多忙極まりない中、しっかり食べて気力を維持した。「おかげでダイエットできなかった」と増えた体重に苦笑い。好きな言葉は「勇気と忍耐」。最近の趣味は漢詩の書写で、心が落ち着くひとときだという。

9月2日 愛媛新聞

（届け出順）

構造改革を継続

村上誠一郎さん（53）

＝自前

「構造改革を継続するかやめるか、二者択一のうゃ士産〟を持って選挙に臨むことになった。

振り返って「内閣で郵政以外の構造改革のほとんどを任された。全力は尽くした」と自負する。

その一方で、「規制改革や行政改革は応援団がゼロに等しい。公務員の総人件費抑制や社会保障経費の削減など、どれも難しいテーマ。郵政が通らないようでは（これらの）政策も実現できない。

大臣折衝などの激務に対し「食って気力を付ける」ため、健康管理が難しいことが悩み。中国の古典の漢詩を書き写し、その哲学に触れることが最近の息抜きという。

曽祖父、伯父、父が国会議員という政治家一族の出身。大臣になり、父らをも越えたと評されるが、「人間的にも中身もまだまだ」と謙虚さは忘れない。

一、まず郵政民営化に取り組みます。

島や山間地域の郵便局は残します。郵便局のネットワークや職員の人脈を駆使すれば、この民営化を好機として、事業の発展につなげられると考えている若い特定郵便局長さんたちと、さまざまな可能性を探り、そのチャレンジをサポートします。

二、財政再建に取り組みます。

社会保障・地方自治・公共事業をスリム化し、次世代の産業の創設、人づくり、21世紀の高齢化社会の準備に重点的に予算を配分します。

三、教育を再構築し、リーダーを育てます。

①初等教育でしつけを行い、読み・書き・そろばん（数的処理能力）を徹底的に修得②強い意志・自分で考え抜く力を鍛え、豊かな心・みずみずしい感性を育成③最終的に「公の精神」「青年の誇り」を持った志のあるリーダーに。

四、外交の建て直し。米・中・EUのはざまで世界に貢献できる日本を目指し、人口爆発、所得格差、環境問題、民族間戦争などを解決できる国家を構築し、世界の平和と安定に努力します。

五、国防などの危機管理体制を確立します。

六、少子高齢化対策により一層取り組みます。

9月2日 読売新聞